

スベック西北

放課後等デイサービス支援プログラム

作成年月日 令和7年3月20日

法人理念

私たちは、誰もが自分らしく、いきいきと暮らせる社会の実現を目指します。

すべての人が住みやすい社会の実現

私たちは、障がいのある人もない人も、誰もが安心して暮らせる、インクルーシブな社会の実現を目指します。地域社会との連携を深め、多様な人々が互いに支え合い、尊重し合える環境づくりに貢献します。

一人ひとりの自己実現

私たちは、子どもたちの可能性を信じ、個性を尊重し、それぞれの「できた！」を応援します。一人ひとりの興味や能力に合わせた支援を提供し、自己肯定感を育み、未来に向かって力強く歩んでいけるようサポートします。

協働して取り組む

私たちは、子どもたち、保護者、地域の方々、そしてスタッフ一人ひとりが、互いに協力し、支え合いながら、より良い支援を提供していきます。開かれたコミュニケーションを大切にし、それぞれの専門性を活かしながら、チームとして子どもたちの成長を支えます。

私たちは、子どもたちの笑顔と、地域社会の未来のために、情熱と誠意をもって活動してまいります。

営業時間 平日 14:00～17:00

休日 10:00～16:00

送迎実施しています。

支援方針

障がいの種別に関わらず、子どもの心身の健康と、希望する生活の実現を最優先に考えます。

支援の重点:

個別性の重視:

- ・子どもの多様な側面を捉え、個々のニーズに合わせた支援を行います。
- ・障がいだけでなく、その人らしさに焦点を当て、個性を尊重します。

コミュニケーションと理解:

- ・子どもの思いを丁寧に聞き取り、ニーズの質を高めます。
- ・子どもと同じ視点に立ち、共感的な理解に努めます。
- ・わかりやすいコミュニケーションを心がけます。

目標設定と支援計画:

- ・子どもの夢や希望に基づいた目標を設定し、実現に向けた支援を行います。
- ・子ども、保護者、職員が協力し、支援計画を作成・実行します。

地域との連携:

- ・地域社会との連携を強化し、地域全体で利用者を支える体制を構築します。
- ・地域社会のネットワークを活用し、地域で解決する力を目指します。

専門性と柔軟性:

- ・職員は専門性を高め、多様なニーズに対応できる能力を養います。
- ・固定観念にとらわれず、柔軟な視点で支援方法を見直します。

協働関係の構築:

- ・子ども、保護者、職員、地域社会との協働関係を築き、チームとして支援を行います。

全体像:

この支援方針は、子どもの個別性を尊重し、地域社会との連携を重視しながら、専門的な支援を提供することを目指しています。

認知・行動

- ・スケジュール、回数などを意識した活動をする
ことで、時間や数などの概念の形成を図ります。
- ・日々の係活動（時間係、運動係など）に
よって、自分の役割を認識して行動できるよう
にします。
- ・順番に応じて、「待つ」や「準備する」など切り
替えが必要な場面を経験し、自分が主体と
なって行動できるように支援します。

健康・生活

- ・1日のスケジュールに応じて、プログラムの前後などに水
分補給、排泄、身だしなみを整えるなどの習慣をつける
ようにします。
- ・活動中などに、暑い、寒いに応じて、子どもが主体と
なって、衣服調節や室温調節をする機会を作ります。

言語・コミュニケーション

- ・プログラムの内容に応じて、スタッフや子ども同士のコミュニケーション
をとる機会を増やします。
- ・相手を意識したコミュニケーション（伝える、きくなど人に頼ること）
に着目した活動を行います。

人間関係・社会性

- ・自分の気持ちがわかり、コントロール
できるように「きく」支援を行います。
- ・プログラムと個人の特性に
応じて、個別、集団で活動
できるように工夫した
支援を行います。

自分の周り

- （家族）
- ・送迎時、定期面談での相談援助
- ・支援アプリを利用していつでも連絡
が取りやすい環境整備
- ・就労等による延長支援
- ・保護者会の開催

（移行）

- ・放課後児童クラブとの連携
- ・ライフステージの移行時の連携

（地域）

- ・民生委員、児童委員との連携
- ・自治体設置の各センターとの情報共有
- ・地域ボランティアや大学生との交流イベン

（職員）

- ・障害特性に応じた配慮のためのインプット・
アウトプット研修、外部研修受講
- ・ビジネスチャットツールを用いた風通しの良
い環境etc

ライフスキルトレーニング

身だしなみ 健康管理

お金の使い方

いろいろなマナー

コグトレ

（身体面）

自分の身体
物と人

（学習面）

みる きく
想像する

（社会面）

感情
想像する

支援プログラム

自立するための 子どもが主体となる
チャレンジする 社会経験のための

運動プログラム

手先を使った運動

身体全体を使った運動

プログラムに応じた
活動パターン
集団、小集団、個別

遊び

動く、考える、勝負
話す、チームワーク

運動・感覚

- ・ボディイメージがつかめる
ようにプログラムを行います。
- ・身体の大きなコントロール、
小さなコントロールができるように
します。
- ・視覚、聴覚などと身体の協応動作の
向上のためのプログラムを行います。

自分自身

（経験）

季節を感じるイベント 正月遊び、節分etc
作って食べる お雑煮、フルーツポンチ、クッキーetc
外に出る 公園、博物館、体育館、電車etc